

ひと・ネットワーク 135

「現場で落穂拾いを」

(福)泉正会
評議員・第三者委員
田代 佳也



この度「痴呆性高齢者グループホーム外部評価調査員養成研修」を修了して評価調査員に加えていただきました。

そんなに福祉経験がある訳ではありません。機会があって社会福祉法人創設から特別養護老人ホーム開設・運営に関わり措置から介護保険制度への移行と大きく変わるときに貴重な体験をいたしました。

その後、改めて社会福祉の講習や県社協の研修に参加し学ぶにつれて、自分のこれまでが反省されてなりません。思えばただ慌しく動いただけで、「ああもしよう」「こうもすれば」との思いが実現しないまま日を過ごしてきたような気がします。また、自分たちだけの思い込みや独りよがりです事をすませたこともたくさんあったと思います。そんな時に、もっと客観的に物事を見ることができていたら、利用者さんたちにもっといい生活を差し上げることができたのにもと思います。

社会福祉分野に限らず改善運動のなかには「三現主義」というのがあって、「現場」「現物の」「現状を」よく見ることが大切だといわれます。研修で初めて痴呆性高齢者のグループホームを見学した時に、お年寄りとの間に「身近な距離」と「ゆったりした時の流れ」が感じられました。これは大規模老人ホームとは異なる印象で、「三現主義」の大切さを再認識いたしました。

そんな体験や今までの反省を心の糧として、評価を行っていかれたらと思います。そして、日頃忙しい中、「サービスの質の向上」に取り組まれている現場の方たちのお手伝いができることは自分自身の生きがいにもなります。外部評価調査という新しいことに参加できるチャンスを素直に喜び、心を新たにするとともに、現場の方々が懸命に進んでいく後を落穂拾いをしながらついて行き、実りある収穫を共に喜び…そんな役割ができればと思います。

け止めるか。ロールプレーでは、技術を応用する力を身につけるだけなく、話す相手の様子や心を敏感に感じ取ることでできる感性を養っていきます。同時に、受講生自身が話をする役を演じること、誰かに受け入れられているというところが、いかに安心で癒されるものかを実感することができるとです。その体験が、話す相手の気持ちに共感できる傾聴へとつながっていくのです。多くの高齢者は、心の引き出しにたくさん思いや悩み、寂しさをしまいでんがあります。その引き出しにあるものを、一つでも多く開いてあげるためには、言葉だけのやり取りだけではない、心と心が通う人間関係

や信頼関係をどう作りあげていくかが鍵となってくるのです。傾聴は、話をされる方だけでなく、聴く方も成長することのできる素晴らしい活動です。与えるだけの福祉ではなく、相互に支え合う福祉をどう構築していくかが問われている今、その一つの方法として、傾聴ボランティアの活動が、地域に根づいて行くことを願ってやみません」と結んでくださいました。

◆NPO法人ホールファミリア協会
☎03-5297-7108
URL <http://www.5d.biglobe.ne.jp/~AWFC/index.html>
※第十三期シニア・ピア・カウンセラー養成講座案内は本紙九面参照



今回の「オウム返し」(話された言葉をそのまま返す話し方)や「ペイシング」(相手のペースに合わせて話す)

「開かれた質問」(はい、いいえで終わらないよう、相手が気持ちを出すことのできる質問)など、傾聴に役立つ方法の一例を教えてください。傾聴の難しさを痛感させられた取材となりました。

存在意義を改めて実感でき、生きていることへの意欲を引き出すことのできる大変意味のある活動です。それだけに「傾聴」の意味と意義をきちんと認識する必要があるということを感じました。

「誰にもこの思いを話さず、一生一人で背負って死んでいくのだと思っていた。死に華を咲かせてもらいました」と話された方がいたそうです。

福祉サービス利用者に、悔いのない人生という大輪の華を、いくつ咲かせてあげることができるとか。耳という字に十四の心と書く「聴く」という言葉の意味を改めて考え、そのあり方を見直す必要があるように思います。(企画課)